

『学校評価書』

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	①生徒の生活実態や学習状況を把握し、計画的・継続的な学習ができるよう指導する。	学習への取組みは、どの項目もやや数値が下がる傾向があり、平日の学習時間が1時間未満と36%の生徒が回答していることについては今後の課題である。与えられた課題を7割以上こなしていると答えた生徒は90.3%である。教師は主体的に学びを促進する授業を試みており、それを自ら課題に取り組む学習に繋げたい。	・学習手帳や個別面談を通して生徒の生活実態を把握する。・6限放課日の放課後時間の有効な使い方を深める。・授業開きのオリエンテーションで、学ぶ意味や学習の仕方等を丁寧に説明し、生徒が主体的に学べるように支援する。・学年会や各部署と連携を図りながら、学習習慣の確立を目指して包括的な指導を行っていく。
	②公開授業や教科会などで研修・研究を充実させ、生徒が主体的に学べる授業実践に努め、授業力向上を目指す。	公開授業期間に研究授業日を設け、統一テーマのもと全校一斉の研究会を行った(参加者60名)。授業力向上をめざし、前期に互見授業期間と公開授業期間を設け、全校体制で取り組んだ。98%を超える教員が主体的な学びを促進する授業実践に取り組めたと回答し、自分の考えをまとめたり伝えたりできたという生徒が88%に達した。これまでの取組みに対し徐々に成果が出てきており、今後も継続・発展させていきたい。	互見授業(教科を越えての授業見学や校内研究会)は生徒を観察し、授業を改善するためのよい刺激になっている。SSH 研究部と連携し、授業力向上を目指しても継続していきたい。
生徒支援	①多様性の大切さを理解させることに努め、思いやりや助け合いの精神、実践力を育成する。	学校行事や日常生活の様々な場面において、相互理解の大切さを伝えることを意識して指導を行った。前年度同様に96%の生徒が周囲の人に対し、思いやりを持って接することができたと回答した。コロナ禍における学校生活の制限も緩和されつつあるので、生徒がより多くの人と接し、関係性を深めることができる機会を増やしていきたい。	引き続き、学校生活の様々な場面において、職員・生徒が多様性理解への意識を高めていけるような働きかけを行っていく。生徒へのマナー・コミュニケーションスキルの指導や職員研修を充実させ、具体的な行動として実践できる力を育成していく。
	②8時20分までに教室に入ることを奨励し、5分前行動を習慣づける。	全体の約77%の生徒が不注意による遅刻が0であり、学期に3～4回遅刻してしまったという生徒は約3%であった。前年度と比較するとやや遅刻する生徒が増えたという結果となったが、家庭において時間管理ができていると回答している保護者が全体の96%と多く、良好な状態であるといえる。	これからも5分前行動を推奨していく。生活の基本である早寝、早起き、朝ご飯を推奨し、安定した生活習慣を確立させ、時間に余裕を持って行動し、マナー向上についても考えられるよう指導していきたい。
	③特別活動の推進と充実に努める。	コロナ禍で制限が多い中での活動となったが、生徒会を中心に創意工夫して学校行事に取り組むことができた。「積極的に取り組めた」と答えた生徒が96%もあり、前年度をさらに上回るすることができた。企画や計画においてよく工夫し、多くの生徒が活躍できる場を提供することができたといえる。	今後も生徒の主体性を大切にした支援を行い、自律の精神を育成していく。生徒会活動のさらなる充実をはかり、リーダーシップやフォロワーシップの育成を行う。すべての生徒が積極的に参加し達成感を得ることができるよう、行事の計画や内容の改善を重ねていく。少しずつ制限が緩和される中

			で学年を超えた交流を充実させていきたい。
生徒のキャリアサポート	①「自分の動詞」を志望に結びつけ、進路実現に向けての面談や進路関連行事を充実させる。	学級・教科・部活動などそれぞれの立場で生徒の実態に応じた進路支援ができたとする教員の割合が、94%(昨年 99%)と9割を保持できた。学年会を中心として志望分野への進路実現を目指す意識が、ある程度共有できていた。生徒の面談等による進路情報に関する満足度は93%(昨年 96%、一昨年 89%)である。保護者の進路情報に関する満足度は78%から86%と向上したがさらに向上を目指したい。	対話の仕方について教員研修を設けることでより効果的効率的な方法を探ってきたい。 PTA 進路担当者と計画の段階から情報共有を行い、保護者との協力体制を確立したい。
	②学習及び進路指導の個別最適を図るために担任と科目担当者、教科会の連携の機会、研修会の実施に務める。	模試分析を行っている教員は昨年度 89%から 97%と大きく増加した。一方、生徒の模試等の見直しは昨年度同様 80%台であった。生徒の進路志望や模試成績を把握している保護者は 90%と高い割合を維持している。	教科会等で入試問題等の分析を行う機会を設けられたことが今年度の数値の向上と思われる、引き続き実施したい。生徒による自己分析に関しては、受験直前や直後に教員によるポイント解説などの働きかけを徹底して主体的な態度を育成する必要がある。
	③入学試験や就職選考試験を分析し、データに基づいて、求められている能力の向上・育成に努める。	入学試験や就職選考試験を分析した教員は昨年度 73%から 81%と向上した。模試業者との連携を図り、デジタルデータを用いて効率的にデータ分析、対策を計画することができてきた。	データ分析方法などが改善の余地があると考えられるため、今後の課題としたい。
保健管理・教育相談	①検診結果をもとに自己の健康状態を把握させ、日常的に生徒自ら健康管理ができるように努める。	85%の生徒が自己の健康管理をなんらかの形でっており(昨年 89%)、日頃の指導の成果が現れている。新型コロナウイルス感染拡大防止対策指導も含めて、今後も継続した指導を行っていく。また、新型コロナウイルス対策の変化を把握、周知し、的確な対応を進めていくことが次年度における課題である。	現在行っている健康に関する自己管理能力の更なる充実と、生徒保健委員会を活用した保健 LT の内容の充実を図る。虫歯の治療率が向上する働きかけを更に検討していく。
	②時間いっぱい清掃に取り組ませるとともに、教室や身の回りの整理整頓、ごみの分別など環境整備に努める。	時間いっぱいに取り組めたと感じている生徒の割合は昨年よりも更に高く 97%となった(昨年 96%)。教員から見た評価はやや下降した(95%→92%)。場所によっては、生徒の自己評価が甘い可能性もあり、引き続き指導していく必要がある。	引き続き、クラス担任との連携のもと継続的に取り組んでいく。さらに生徒美化委員会との連携のもと、生徒が主体的に行動できるように指導していく。10 分間の清掃時間により集中して取り組めるように手立てを更に検討する。
	③担任・学年主任ならびに保護者との連携を密にして、生徒と面談する機会を多くもつことに努める。	98%の生徒が面談で話を聞いてもらえたと感じている。昨年(97%)に比べて上昇した。面談回数については、4回以上の面談回数を行うことができた教員は、79%であり面談の重要性の認識が定着しているが、更にきめ細やかな生徒とのコミュニケーションが必要である。 教育相談活動の場としての相談室が再開され、常駐教員を置くことができた。	相談室は確保できたが、相談室登校、保健室登校生徒が増加傾向にある中、教育相談体制のさらなる充実の必要性がある。複雑な相談内容も増え、SC や外部機関など専門家との更なる連携を深める必要がある。

<p>地域住民との連携</p>	<p>①PTA 総会、各委員会活動、同窓会総会などの場で積極的な広報を心がけ意見交換の充実に努める。</p>	<p>PTA活動の満足度は 96.5%と非常に高い評価を得た。PTA役員における各種委員会活動では、進路研修のWeb配信や文化祭におけるマスク配付、キッチンカー誘致、PTAだよりのページ増、紙面の刷新などコロナ禍においてもさまざまなアイデアを出していたが、充実した活動を行うことができた。PTA総会は3年ぶりの対面開催となった。参加者は 399 名で出席率は 53%であった。目標の 70%には及ばなかった。コロナ禍での開催であったことも一つの要因と考えられる。</p>	<p>引き続き、PTAの各種委員会と連携し、PTA活動の充実を図っていきたい。そのために、昨今の状況を考慮しつつ、保護者の要望を反映した研修等の提案、PTAだより作りなどに取り組みたい。 また、大きな課題としてPTA総会の出席率向上がある。コロナ禍での開催であったことを鑑みても、出席率を増やす必要がある。PTA総会後の研修会を充実するなど、各部署とより一層連携を密にする必要がある。</p>
<p>図書整備</p>	<p>①読書案内や新刊図書の情報を充実させ、図書室の利用者数の増加を図る。</p>	<p>図書室を3回以上利用した生徒は、前年度 30.7%から 36.8%と約6%増加した。一昨年度までに比べれば低い、その要因は、Chromebook の導入によって、図書室でPCを借りる必要がなくなったことが考えられる。 また、広報物に関する質問では、「目を通した」とする割合が21%増加しており、これは、昨年度は Google クラスルームで広報したものを紙媒体にもどしたことによるものと考えられる。</p>	<p>図書室利用者の減少は、Chromebook を授業や放課後に活用しているためと考えられるため、決して悪い方向ではない。 広報物に関しては、紙媒体で掲示した方が良いと考える。来年度も紙媒体を用いることが望ましい。</p>
<p>探究的な学習</p>	<p>②蔵書数や内容を充実させ、生徒の図書利用を促進する。</p>	<p>読みたい本が、図書室に充実しているかという質問に対して、77%以上の生徒が充実していると答えた。これは、5年前から生徒に購入希望図書のアンケートをとり、その希望にできる限り応えてきたことが要因と考える。</p>	<p>生徒に対し、今後も購入希望図書のアンケートを実施して、可能な限り実現させる。 また、朝読書週間に合わせて新刊を購入するなど、新刊を紹介できる機会を増やす。</p>

学 年 会	①担任が方針を明確にし、生徒が協働して活動できる学習環境を整える。	各学年の目標をもとに各クラスが学級目標を掲げ、クラスの生徒が学習や行事において自分たちで考え行動する場を多く設定することができた。自分の考えを深めたり他の生徒に考えを伝えたりできた生徒が90%近くいたこと、周囲に対して思いやりをもって接することができた生徒が96%いたことから、協働して活動できる場が十分にあったと考えられる。	各学年の方針をもとに、各クラス担任が目指す生徒像に基づいて学級経営を明確にし、引き続き生徒が活躍できる場を多く設けていく必要がある。
	②キャリア実現に向け、3年間を見据えた計画・実施・再検討を各学年団で共有する	各部署・各学科と各学年会が連携し、研修会や進路行事を企画し、生徒のキャリア発達・キャリア形成・キャリア実現の支援を行った。また、上級学年の生徒や担任からのアドバイスの場も多く設定し、最新情報を得る機会を増やしたことにより、90%以上の生徒が必要な情報を得ることができたと回答している。	引き続き各部署・各学科と各学年会が連携し、3年間の見通しをもったキャリア発達・キャリア形成のストーリーを描くとともに、生徒のキャリア実現の支援に努めたい。
	③日頃の保護者連絡および保護者会での情報共有を密にし、地域や保護者へ教育内容を分かりやすく提示する。	コロナ禍において保護者向けにHPやZoom、YouTube等を利用して可能な限り丁寧な進路情報提供を行った。その結果、役立つ進路情報を「あまり得ることができなかった」「得ることができなかった」と回答された保護者が21.7%から14.3%と、昨年より大きく減少した。	コロナの感染状況等を考慮しながら、対面で保護者に直接説明をしたり、意見交換をしたりする場を多く設定する。さらに、保護者懇談会の持ち方を工夫することでさらに学校と保護者との信頼関係の構築に努めたい。